

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103961		
法人名	有限会社 やわらぎ		
事業所名	グループホーム やわらぎ		
所在地	松山市枝松6丁目7-12 (電話)089-987-8380		
管理者			
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年5月15日	評価確定日	平成19年10月30日

【情報提供票より】 (19年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 6人, 非常勤 9人, 常勤換算 7.5人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(3) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり(なし)	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出	あり(なし)	短期利用型共同生活介護
加算	(あり)・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かで落ち着いた住宅街の一角に位置し、終の棲家にふさわしく温もりと環境に恵まれている。利用者同士の助け合いが多くみられ、あ・うんの呼吸が求めなくても思っていることが相通じる関係が出来上がっている。全職員が仲良く何でも相談でき話し合える働きやすい自慢の職場である。職員はいつも利用者を尊敬し感謝する心を意識しケアに専念している。一番楽しい食事の時間は、会話が弾み笑顔いっぱいのホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
改善課題はミーティングで全職員に報告され、1つひとつの改善点に真剣に取り組んでいる。理念の浸透に努めることや全職員が利用者をより深く知り、介護計画に活かすなど丁寧にすすめている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

限られた短い期間に半数の職員が自己評価をおこなった。1つひとつの評価項目のねらいや活用方法を全職員が学習し自己評価を行うことが望まれる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

主な討議内容についてはこれからの課題である。地域に開かれたサービスとして質の確保を図るための利用者の状況や取り組みの報告、助言、話し合いが必要である。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

入居後、本人が明るくなりご家族から喜んでもらえることが職員の励みになっている。苦情の対応にご家族との交換ノートを計画中である。ご家族にとって体調不良が一番の不安になるため、ホームからのより綿密な連絡を期待する。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

町内会に加入している。消防訓練やホーム主催の夕涼み会、芋たき会には地域の人々も訪れかわりを深めることができる。近隣の小学生や幼児が顔を見せてくれることは利用者の楽しみ・癒しになっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム やわらぎ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 白井典子

評価完了日 平成19年6月12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の目指す介護理念の3原則を作成し、提示している。 (外部評価) 人間としての尊厳を大切に、自己決定できる場面づくりを工夫し、日々いきいき過ごすための地域との連携の重要性を運営者・全職員が理解している。	※	地域密着型サービス可能な具体的内容の理念を全職員で考え取り組んでいくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌や日々、目につく場所に提示し日々確認しながら仕事に取り組んでいる。 (外部評価) ミーティングやケアプラン作成時には、理念が生活の場で活かされ反映されているか確認したり、意見を出しあったりしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には、入居時に理念の説明をし、地域の方々には運営推進会議等で話している。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 気軽に立ち寄ってもらえるよう出入りを自由にし、ペットの犬を通して地域の方々と交流が増えている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 学生のボランティアを受け入れたり、小学校の学習訪問などを定期的を受け入れている。 (外部評価) 町内会に加入している。日常的に近隣の小学生や幼児が訪問し、利用者が寛ぐホールにも顔を見せてくれる。散歩の途中には近所の人達に声をかけてもらい、ベンチで休んだり、パラソルの下で涼んで帰ることもある。	※	地域活動に積極的に参加する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の独居老人の方の来訪や食事会、おやつ会への参加を提案しているが、実施は現在はなし。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価の情報を共有し、改善点等はミーティングや日々の申し送り時に話し合い、日々のケアに活かしている。 (外部評価) 前回評価結果の改善点を一つひとつ丁寧に見直し、質の向上の確保に向けて進めている。今回の自己評価は、ユニットごとで半数の職員が取り組み作成している。	※	全職員が自己評価の意義や内容を学習され、自己評価を行うことが望まれる。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、情報・意見交換し内容をミーティングで報告し、話し合いサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 管理者は毎回のテーマに悩んでいる。自己評価や外部評価の結果について、運営推進会議で話し合ったことはない。	※	内容やメンバーは、地域に開かれたサービスとして質の確保を図るために必要なものとするを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ホームとしては、市町村に対して取り組み的なものは行っていない。 (外部評価) 市社協の案内等にレクリエーションや調理のボランティア要請を掲載してもらうことを計画中である。	※	認知症のケアの向上の為に、市や自治体と積極的に連携が図っていけるように、ホーム側から働きかけたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し各職員にも報告し、必要な方々には活用できるようにしているが現在は、該当者なし。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法に関する書類等を事務所に提示し、職員は日々確認をしながら仕事に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学をしてもらい、ご本人・御家族に十分な説明をし意向をはっきり聞き把握し、納得された上で入居を決定してもらう。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 連絡ノートを作成し、日々介護記録や連絡ノートに記入し申し送り等で情報交換を徹底し、ケアに生かしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時に健康状態の報告をしている。また、出納帳に領収書などを添付し、面会時に報告している。 (外部評価) ご家族が月1回利用料支払いのため訪問された時に日頃の様子を伝えたり、金銭出納の確認を行っている。ホーム便り・手紙・写真の送付もしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時には、少しの時間でも話ができる様な場を作り意見など出して頂けるように取り組んでいる。 (外部評価) 不安や苦情をご家族が口頭で話されるのはなかなか難しいことなので、ホームと家族間の交換ノートならいろいろ書いてもらえると考え計画中である。体調面はご家族にきめ細かく連絡報告している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回リーダー会を行い、情報交換をし、ミーティング、ケアプラン会で伝達し話し合いの場を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要な人員確保はできており緊急時の連絡網も作成しており、対応できるような体制が取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動に関しては、本人の希望以外は最小限におさえており、利用者へは混乱を避ける為告知していない。 (外部評価) 利用者の混乱を防ぐため、職員の異動や離職による引き継ぎは自然なかたちで行い、管理者の異動の報告は正式に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会を開催したり研修案内の希望を募ったり受講等を勧めている。 (外部評価) 月1回内部の勉強会を実施している。同法人内のホームとの研修の機会もある。ただ、研修意欲はあるが、外部研修の参加があまりない。	※	受講後は、報告書を提出してもらい報告の場を設け他の職員にも伝達している。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームの運営推進会議に参加などしている。 (外部評価) 近所のホームには散歩の時に立ち寄ることもある。運営推進会議には近所のホームの職員と行き来し、情報交換しながら互いにサービスの質の向上を目指している。	※	相互訪問の機会を増やしたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットごとにミーティング等を行い親睦を図っている。常に話し合える場を設けている。	※	親睦会等の機会を増やし、相互の親睦をより一層深めたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努力や実績を把握したうえで、賞給や昇格等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 初期の方には、集中してコミュニケーションを取ったりケアに関わる機会を作っている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前にカンファレンス等を行い、希望・要望を聞き把握した上で取り組んでいる。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) カンファレンス時に、必要支援を把握し出来る限り対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 契約前に見学してもらい、雰囲気を体感してもらう様にしている。 (外部評価) まずは見学してもらうことから始め、徐々に馴染む事を大切にして、入居前に介護計画を作成し入居2週間後に内容確認を行い、ご家族の意見も取り入れ安心できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理や家庭菜園などを一緒に行なう場を作り、その都色々と教えてもらったり一緒に体感している。 (外部評価) 利用者のつづやきの中から共に楽しく生活するためのヒントを発見しながら、利用者の表情に関心を寄せ、安心で安定した暮らしができるよう声かけている。職員が利用者一人ひとりに感謝の気持ちで接し、協働しながら和やかに生活している。	※	家庭菜園をしたり、誕生日会を開き共に喜びを感じている。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 心身の状況、日々の出来事を報告し家族の気持ち等を聞き入れ共有し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族から情報収集したり、会話の中で利用者から情報収集したりしている。面会時は、利用者の自室で一緒に過ごしてもらっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪して頂けるように、出入りを自由にしている。現在でも、月に数回知人・友人等の来訪あり。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格等を把握し、相互の関係を理解した上でケアを行なっている。スタッフが間に入り、コミュニケーションを取りやすくするよう心がけている。	※	リビングに集まりゲームをしたり、食事・おやつなどを同じ場所で行なっている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) やわらぎ便りを送ったり、自由に出入り出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一対一でのコミュニケーションの場を作り、希望・要望等を聞いている。 (外部評価) 利用者個々に担当職員を決めているので散歩や買い物スムーズにできる。ゆっくり寛いだ気分の時や会話の中から思いや希望を汲み取っている。	※	各自に担当スタッフを配置し、対応している。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前にアセスメントシートなどで情報収集したり、カンファレンスなどで情報を把握しケアに努めている。	※	経験や得意分野を有効に活かした作業・家事等をしてもらっている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録に細かく記入し、コミュニケーションを取る中で心身の様子を観察しながら接し、申し送りなどで情報交換を行なっている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人とまず話し合いをし、担当が計画を作成し全員でカンファレンスを行い家族に説明し、相互の意見の交換などを行なっている。 (外部評価) 本人や家族に悩んでいることを聞いたり、認知症が進んでいる人は、日々の会話の中から把握しながら、担当職員を中心に介護計画を立てている。介護記録はその人らしく地域で暮らし続けるための内容に活かされている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月を目安の期間とし、見直しを行なう場合はカンファレンスを行い、変更時にはその都度家族に説明している。 (外部評価) ケアプランチェック表には介護内容、実施状況を詳しく記入し、遂行状況や効果を評価している。家族訪問時には希望を聞き、報告し、月1回の見直しに役立てている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、計画・評価につなげている。	※	ケアプランチェック表を作成し、日々の変化などを記入して介護計画・評価につなげている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 系列事業所と情報交換し、連携を取り必要に応じてしている。 (外部評価) ホームとして利用者と家族が安心して暮らし続けていくために必要な多様な支援の提供は、始まったばかりである。	※	多機能性を活かした柔軟な支援について学習・検討・実施がこれからの大きな課題であるので、今後の取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要時に応じて、警察・消防には要請をして協力してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の必要・希望に応じて、外部のマッサージやリハビリ等の支援を行なっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に参加してもらい、意見情報交換などを行なっている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 内科・歯科と協力医療機関と連携を図り、気軽に相談でき治療が受けられる体制を取っている。 (外部評価) かかりつけ医は2週間に1回訪問診療に来られ、関係を蜜に結んでいる。健康診断結果はご家族に報告し情報を共有している。緊急の場合には速やかに医療機関に引継ぎ、通院の場合は可能な限り通院介助を行っている。	※	24時間対応の協力医療機関と連携の体制を取っている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院と連携を図り必要に応じて受診できる体制を取っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 介護職員を配属していない為、協力病院のNSと連携が取れる体制を取っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、見舞い等を行い、家族と話し合いながら病院と連携をとりながら早期退院に向けて話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現状的には、看取りは実施していないが、重度化時の対応指針を決めており、家族とかかりつけ医とも話し合っている。 (外部評価) 重度化した場合の対応はホームとしてまだ経験がないが、指針は定めている。	※	早期から本人と家族の安心と納得が得られるよう繰り返し話し合う場を設け、最大の支援ができるよう方針の統一が求められる。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) できること、できないことを把握し、介助は最小限にし、Drと連携をとりながら出来るだけ無理のないように支援に取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報交換をした上で、徐々にになれる様に環境を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりの性格や情報を把握し、まず本人の意思を尊重し、ケアを行なっている。 (外部評価) 運営者は尊厳について学習の時間をもち、全職員の徹底が図られるよう日頃から取り組んでいる。月1回のミーティングでも、プライバシー保護について確認しあっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 散歩・入浴・食事・買物など、本人が日常的に自己決定を行なえる場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々、利用者のペースにあわせてケアを行なっている。(食事・入浴・起床等) (外部評価) 利用者一人ひとりをよく知った上で、その人にとってふさわしく、希望が発揮できる場面で声かけを行ったり、自主性を尊重しながらペースに合わせた支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 近所の美容室、理容店を利用したり、本人の希望にあわせてスタッフが散髪したりしている。洋服等も自己決定してもらい、着替えてもらっている。	※	出張美容室も利用している。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じて、無理のないように家事等は協力してもらっている。 (外部評価) 食卓を囲んで経験豊富な利用者から教えてもらうことも多く、会話が弾み明るい雰囲気です。出来る事、得意な事が自然にできるよう進められている。男性も食器拭きを手伝っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望、要望にあわせて購入している。一緒に買いに行ったり、スタッフが代行しての購入もある。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターン・排泄のサインを把握し、声かけ、誘導を行っている。排泄チェック表を作成し、ケアを行なっている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望を聞き、本人のペースに合わせて入浴してもらっている。夜間は、二名の方が自折入浴されている。 (外部評価) 希望者は毎日入浴可能な体制になっている。介助が必要な人は、職員が多い時間帯や受診前に希望を聞き入浴支援をしている。拒否の場合は、馴染みの職員が声かけを行い納得してから入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 希望に応じた時間に、入眠してもらっている。照明等も本人の希望にあわせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴を把握した上で、個々の得意分野に応じて役割作りをし、実施している。 (外部評価) 利用者同士の息が合い、仲よく助け合いながら趣味を活かすことや家事を手伝うことが自信につながっている。	※	買物・外出等の希望があれば、その都度行なっている。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は、本人で所持してもらっている。(1名)大半は、職員が管理している。通帳などを毎月、目を通して確認してもらっている。	※	お金を持つ、支払うという場面や機会を増やしたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望に応じて、買物、外出等に出かけている。 (外部評価) 昼食の前後、積極的な外出支援を行っている。散歩の時は近隣の人からの声かけがあり、休憩させてもらうこともある。少し遠くへのドライブは、季節の移り変わりを感じたり気分転換になり、いきいき過ごす源となる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望に応じて出来る範囲内で行なっている。(お墓参り・知人・自宅訪問)		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、買物・自由に電話できるようにしている。かける事の出来ない方には、スタッフが代行して行なっている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 出入りを自由にしており、頻繁に訪問・面会あり。一緒におやつを食べたりしている。	※	自由に、室内であれば自由な場所で過ごしてもらっている。
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 柵を使用せず、車椅子での過ごし方は、本人の希望意志を尊重し、ケアに努めている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関に鍵をかけず、自由に出入り出来るようにしている。自室に鍵もなく、自由に出入りしてもらっている。 (外部評価) たそがれ時等に外出傾向が見られる方がいるが、落ち着くまで一緒に出かけて散歩や買い物をする事で対応している。近所の人にも理解と協力を得ている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 各自の所在を確認・把握し、出来る限り利用者の側にいる体制を取っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 火元の管理の困難な方には、職員が管理している。タバコ(ライター)等を自分で管理している方は、現在は2名いる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 身体に関わる防止知識は、消防訓練の際などに教わっている。	※	事故報告書を作成し、防止に取り組んでいる。再発防止に向けて、その都度話し合うようにしている。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成したり、年に1回の消防訓練で行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 日頃から、地域と連携を取り協力体制を取っている。 (外部評価) 年1回の消火器の使い方や心臓マッサージなど、火災・緊急時の訓練だけでは不安な面がある。	※	地域の方々にも消防訓練等に参加してもらっている。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 状態・状況に応じて、その都度家族には説明し理解を得て要望も聞き対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルを取り、日中などは顔色・表情などを観察して情報を共有出来るような体制を取っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬の目的を理解し、服薬の支援をしている。症状の変化があれば、医師に連絡しサポートをもらって対応している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳を飲んでもらったり、散歩をすることで腸を活性化、食物繊維の食事に取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きやうがいを誘導し、就寝前には義歯を預かり消毒している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランス・高齢者向けのメニューを作成し、摂取量などを記録し対応している。 (外部評価) 軟らかいご飯や利用者が好きな魚料理・手作りのおやつなどバランスよく取り入れている。お茶は常に用意され自由に飲める。食事・水分摂取量はチェック表に記入され、個別に把握できている。	※	不足している方には、補助食品（ラコール・エンシヤア）を飲んでもらっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルを作成し、予防・対応に努めている。	※	ノロウイルス時には、ピュオロジョンなどの消毒液等を使用。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器洗浄器等を使用し、衛生管理を行っている。一日分の食材の買物を行なうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇には季節の花などを植えたり、温かみのあるポストや表札を使用したり、親しみやすい雰囲気心がけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先には、季節の花を生けたり家族に頂いた置物などを飾っている。 (外部評価) 母の日には家族から花が届き、居室やリビングの雰囲気を明るく飾っていた。車いすの利用者に配慮し、安全に移動ができるよう家具の配置には心配りが感じられる。テレビのつけっ放しには気をつけている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダや廊下に椅子を置いたり、ソファの位置を離れた場所に置いたりなど共有空間内での居場所の確保を行なっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇・タンス等の使い慣れた物を持参してもらっている。 (外部評価) 嫁入り道具の自慢の鏡台や使い慣れた筆筒が部屋に持ち込まれ、馴染みのものに囲まれて落ち着いて生活している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、自室・リビングの窓を開け空気の入換えなどを行なっている。室内温度計を設置し、温度調節を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴室・廊下・トイレなどに、手すりを設置している。外階段には、昇降機を設置し身体機能が低下しても対応出来るようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室の入り口に、各自表札をかけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダ等にベンチを置き、日光浴を行ったり毛染め等を行ったりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんど掴んでいない	個別に話す場所を作り、希望や意向に応じている。(外出・買物)
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ①毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食後にゆったりとした時間があり、個別に過ごしたり、散歩に出かけたりしている。スタッフはバタバタせず、同じ空間・同じペースで過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床は、本人のペースに応じて介助しており入浴・食事等も本人の希望に沿ったケアを行なっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	コミュニケーションを取ったりする事で、安心されたり・笑顔になったりもされる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体的な状況もあるが、希望があれば身体に負担のない程度を考え外出している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に応じて対応・処置を行なうことで、安心されており、心身に変化があれば本人から報告して下さる信頼関係が築けている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望のある方には、その都度対応している。要望の少ない方に関しては、こちらから声かけをし希望などを聞く体制を取っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	情報・意見交換を面会時に行い、状況報告なども相互で行なえる様な関係を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	出入りは自由にしており、個々によって来訪は異なるが毎週一回来られる方や2～3日に一回来られる方もいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩通路にベンチを設置して下さったり、地域の方のご好意で獅子舞などを呼んで下さったりしている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの笑顔も多く、新しいアイデアなども積極的に提案してくれている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々落ち着いて穏やかに過ごされており、表情からも伺える。中には、数名ではあるが不満などを話してこられる方もいる。その方については、対応出来る範囲で改善している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	常に家族からの要望を聞く体制を取っており、特に苦情的なものもなく面会にもよく来て下さる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

ボランティアに力を入れており（踊り・レク・歌など）、利用者の方にも刺激になり喜んで下さっているのも今後も積極的に取り入れて行きたいと思う。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム やわらぎ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 宮岡 忍

評価完了日 平成19年6月12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) めざす介護として、3つの理念を作っている。 (外部評価) 人間としての尊厳を大切に、自己決定できる場面づくりを工夫し、日々いきいき過ごすための地域との連携の重要性を運営者・全職員が理解している。	※	地域密着型サービス可能な具体的内容の理念を全職員で考え取り組んでいくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌や目のつく所へ掲示しており理念にそったケアに取り組んでいる。 (外部評価) ミーティングやケアプラン作成時には、理念が生活の場で活かされ反映されているか確認したり、意見を出しあったりしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議で意見交換、情報交換等を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日々の挨拶や、会話を大切にしている。回覧板で月一回のやわらぎ便りを回している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 理由がない限りは参加させて頂いている。 (外部評価) 町内会に加入している。日常的に近隣の小学生や幼児が訪問し、利用者が寛ぐホールにも顔を見せてくれる。散歩の途中には近所の人達に声をかけてもらい、ベンチで休んだり、パラソルの下で涼んで帰ることもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いは、進んでいないが予定はしている。	○	地域の中で、気軽に相談等できる場所として介護相談室の設置
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 理解している。評価を参考にして改善すべき所を見直している。 (外部評価) 前回評価結果の改善点を一つひとつ丁寧に見直し、質の向上の確保に向けて進めている。今回の自己評価は、ユニットごとで半数の職員が取り組み作成している。	※	全職員が自己評価の意義や内容を学習され、自己評価を行うことが望まれる。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 徐々にではあるがサービス向上に活かしていると思う。 (外部評価) 管理者は毎回のテーマに悩んでいる。自己評価や外部評価の結果について、運営推進会議で話し合ったことはない。	※	内容やメンバーは、地域に開かれたサービスとして質の確保を図るために必要なものとすることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外では機会が少ない。 (外部評価) 市社協の案内等にレクリエーションや調理のボランティア要請を掲載してもらうことを計画中である。	※	昼食会、他行事ごとに、お呼びして、行き来する機会を作る。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修へいった職員より報告があったり資料を配ったりした。現在、		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞の切り抜きをしたり、職員に注意を払うように、申し送り時や会議のときに呼びかけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居される前に、説明させて頂き、納得の上契約を結んでいる。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんへ変わった様子があれば、そっと声をかけて話しをするようにして気持ちを聞き原因を考えて職員同士で話し合いケアを考えている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 健康状態に応じて、連絡を行なっている。月に一回の手紙の時、面会の時に様子を伝えている。 <hr/> (外部評価) ご家族が月1回利用料支払いのため訪問された時に日頃の様子を伝えたり、金銭出納の確認を行っている。ホーム便り・手紙・写真の送付もしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書に苦情の窓口記載。面会時には、家族さんとの会話を大切にしている。「こうして欲しい」等があれば職員全員に伝えて徹底している。 <hr/> (外部評価) 不安や苦情をご家族が口頭で話されるのはなかなか難しいことなので、ホームと家族間の交換ノートならいろいろ書いてもらえると考え計画中である。体調面はご家族にきめ細かく連絡報告している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ケアプラン会や、時間を見つけて個人的に職員の気持ちを聞ける場をつくっている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要な人員は、確保できている。緊急時の連絡体制もできている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動等ある時は、利用者さんが不安を感じたり混乱されないように配慮している。 (外部評価) 利用者の混乱を防ぐため、職員の異動や離職による引き継ぎは自然なかたちで行い、管理者の異動の報告は正式に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会は増えたが、外への研修の機会が少ない。 (外部評価) 月1回内部の勉強会を実施している。同法人内のホームとの研修の機会もある。ただ、研修意欲はあるが、外部研修の参加があまりない。	※	研修の機会を増やす。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 近くのグループホームの会などには参加している。 (外部評価) 近所のホームには散歩の時に立ち寄ることもある。運営推進会議には近所のホームの職員と行き来し、情報交換しながら互いにサービスの質の向上を目指している。	※	外部研修は一人でも多くの職員が受講し、報告の場を設け、全職員の育成に役立てることが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会は、各ユニットで年に1、2回あり職員のストレス軽減に努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努力や実績を把握した上で、昇格や昇給をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 職員の考えではなく利用者さんの気持ちとなってゆっくり聞かれるゆっくりとした時間をつくっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族さんの気持ちや要望聞く機会を作り、把握に努めている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要に応じて、他のサービス利用も考えている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学に来て頂いたり、説明させて頂いたり雰囲気を感じてもらい決めて頂いている。 (外部評価) まずは見学してもらうことから始め、徐々に馴染む事を大切にしている。入居前に介護計画を作成し入居2週間後に内容確認を行い、ご家族の意見も取り入れ安心できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) その方その方の個性、経験、得意とすることが発揮できるような場作りをしながら利用者さんから学び、共に喜びあえる関係づくりに努めている。 (外部評価) 利用者のつづやきの中から共に楽しく生活できるためのヒントを発見しながら、利用者の表情に関心を寄せ、安心で安定した暮らしができるよう声かけている。職員が利用者一人ひとりに感謝の気持ちで接し、協働しながら和やかに生活している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は、話しをする時間をつくり、家族さんの気持ちを聞いている。今後私たちが考えているケアについて相談させて頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に家族さんにも声をかけているが仕事の関係等で、参加して頂ける人数が少ない。	※	曜日の希望を聞いたり、参加の意味や理解して頂けるように伝えていく。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 気軽に友人が遊びに来て下さっている方もいる。お茶を出したり、選挙へ行きたいと言われその日、お友達の方も一緒に職員運転で、同行させて頂いたり、できる所は協力させてもらっている。		遊びにきて下さった時に、了解を得て写真をとったものを、やわらぎ便りと一緒に郵送したりしている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 喧嘩も多いが、一緒に笑ったり、協力しあえたりできる場作りをしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) やわらぎ便りを送らせてもらったり、手紙を書いて送らせてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一対一での、コミュニケーションを作り気持ちを聞いたりしている。 (外部評価) 利用者個々に担当職員を決めているので散歩や買い物がスムーズにできる。ゆっくり寛いだ気分の時や会話の中から思いや希望を汲み取っている。把握が困難な時は、家族に尋ねることもある。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、入居後、利用者さんや家族さんに聞き記録。今後のケアの参考にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々一人一人の観察を行った上、記録も細かく記入し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 一ヶ月一回、ケアプラン会を行なっている。家族さんには面会時に今月のケアプランの説明や相談をさせてもらっている。 (外部評価) 本人や家族に悩んでいることを聞いたり、認知症が進んでいる人は、日々の会話の中から把握しながら、担当職員を中心に介護計画を立てている。介護記録はその人らしく地域で暮らし続けるための内容に活かされている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態が変わったときは、その都度話し合い作成している。 (外部評価) ケアプランチェック表には介護内容、実施状況を詳しく記入し、遂行状況や効果を評価している。家族訪問時には希望を聞き、報告し、月1回の見直しに役立てている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 細かく個人記録や連絡ノートに記入して、情報交換しケアに活かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者さんの要望、例えば選挙へ行きたい、お墓参りをしたい等、一緒に行き支援している。 (外部評価) ホームとして利用者と家族が安心して暮らし続けていくために必要な多様な支援の提供は、始まったばかりである。	※	多機能性を活かした柔軟な支援について学習・検討・実施がこれからの大きな課題であるので、今後の取組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 警察、消防に要請し協力して頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の必要性に応じて、外部のマッサージを利用するなど支援している。。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議に来て頂き、協働している。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間対応の協力病院と連携している。希望ある時は相談の上希望の所で支援できるようにしている。 (外部評価) かかりつけ医は2週間に1回訪問診療に来られ、関係を蜜に結んでいる。健康診断結果はご家族に報告し情報を共有している。緊急の場合には速やかに医療機関に引継ぎ、通院の場合は可能な限り通院介助を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 二週間に一回の往診。変わった事あればその都度、先生へ電話して相談、指示を頂いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員は配属していないため協力病院の看護婦と連携がとれる体制をとっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時はお見舞いに行ったり、家族さんとも話し合いながら、病院との連携を図り早期退院にむけて話しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) まだ、看取り実施したことはないが、重度化したときの対応の指針を決めており家族へもかかりつけ医にも話しあえている。 (外部評価) 重度化した場合の対応はホームとしてまだ経験がないが、指針は定めている。	※	早期から本人と家族の安心と納得が得られるよう繰り返し話し合う場を設け、最大の支援ができるよう方針の統一が求められる。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 病院ではないので、できる事は限られるが、家族の希望、本人の希望を聞きながら先生にも可能な限り協力をお願いしていきたい。	※	今後のことを考えて経験されているグループホームでの情報収集を事前におききたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今までの情報から現在に至るまでの情報交換。急に場所を変えるのではなく、時々見学にいき、場所の雰囲気になんとも慣れて頂ける工夫等。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 会話するときの視線や、声の大きさ、さりげない対応を心がけている。 (外部評価) 運営者は尊厳について学習の時間をもち、全職員の徹底が図られるよう日頃から取り組んでいる。月1回のミーティングでも、プライバシー保護について確認しあっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) その方その方の表現の仕方があるので、言葉で伝えるのが難しい方は、身体で出しているサインを見つけてコミュニケーションを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 業務よりも、利用者さんの希望があれば聞いて、できるだけ一緒に買物へいったしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりをよく知った上で、その人にとってふさわしく、希望が発揮できる場面で声かけを行ったり、自主性を尊重しながらペースに合わせた支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者さんの希望を聞きながら染めたり切りに行ったりしている。開設当時からお世話になっている近くの美容室へ行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニュー表は作成しているが、時々広告やテレビを観て「こんな食べたい」等希望があれば変更して「じゃあ、今から作りましょうか」と声をかけ一緒に作ったりしている。 (外部評価) 食卓を囲んで経験豊富な利用者から教えてもらうことも多く、会話が弾み明るい雰囲気です。食事を楽しんでいる。出来る事、得意な事が自然にできるよう進められている。男性も食器拭きを手伝っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望で居室に、お菓子、飲み物を置いている方もいる。お酒、タバコの好きな方は現在はいない。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を作ってパターンをつかみできるだけトイレでの排泄になるよう誘導、声かけをさりげなくしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) スタッフの都合で決めず、利用者さんの意見を聞きながら順番をきめている。バスクインの種類を決めて頂き、色や香りやそこでの会話を楽しくするようにしている。 (外部評価) 希望者は毎日入浴可能な体制になっている。介助が必要な人は、職員が多い時間帯や受診前に希望を聞き入浴支援をしている。拒否の場合は、馴染みの職員が声かけを行い納得してから入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 不安で寝れない方には、お話を聞いて少しでも不安が安心へと変るような対応。日中は散歩を多く取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの楽しみ、役割をみつけている。色塗り、水やり、台所のこと、洗濯物の事を役割としている方がいる。して頂いた後は感謝の言葉を大切にしている。 <hr/> (外部評価) 利用者同士の息が合い、仲よく助け合いながら趣味を活かすことや家事を手伝うことが自信につながっている。	※	一日を通して、ソファに座っている事が多かったり、自ら訴えを言われない方に対しての関わり方をもっと考えていきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人がお金を管理されている方もいるがほとんどの方は、ホームで管理している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望があればできるだけ希望を優先にしている。行けないときは説明させてもらっている。 <hr/> (外部評価) 昼食の前後、積極的な外出支援を行っている。散歩の時は近隣の人からの声かけがあり、休憩させてもらうこともある。少し遠くへのドライブは、季節の移り変わりを感じたり気分転換になり、いきいき過ごす源となる。	※	4人体制を取り入れて、できるだけ利用者さんの希望を叶えたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行ってみたい～等の言葉を聞き逃さず、今日ではなくても実現できるようにしている。行事ごと以外は家族へ声をかけてはしない。	※	行事ごと以外の外出も家族と行ける機会をつくる。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば使っている方もいる。耳が遠い等、必要があれば職員が間に入り伝えさせてもらっている。葉書等で、返事を書いている方もおられる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 日中は、鍵をかけず出入り自由である。お茶を出しにいった時、会話を心がけて写真を撮らせて頂いた時は手紙を添えて送っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。事務所に身体拘束に当たる行為の用紙を掲示している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関に鍵はかけていない。 (外部評価) たそがれ時等に外出傾向が見られる方がいるが、落ち着くまで一緒に出かけて散歩や買い物をする事で対応している。近所の人にも理解と協力を得ている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者さんの様子を見て、居室にいるときホールにいるとき、気をつけている。日中、必ずホールに一人職員がいる様に位置確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) その方の状況に応じて環境づくりを考えている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書を作成と今後の対策を話し合い、考え、二度同じことが、できるだけ起こらない様に取り組んでいる。起こった時に対応できるようにマニュアル作成。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年一回、訓練がある。時々マニュアルに目を通すように声をかけている。	※	年一回の訓練だけでは、実際あったときパニックになる恐れがあるので、定期的に行える機会をつくる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 日頃からコミュニケーションを図り、消防訓練の時も声をかけている。 (外部評価) 年1回の消火器の使い方や心臓マッサージなど、火災・緊急時の訓練だけでは不安な面がある。	※ ※	マニュアル作成や利用者一人一人の避難方法。地域の方々とのコミュニケーション。 早急に、運営推進会議で地域の協力をお願いをすることや、地震や夜間想定避難訓練の実施が望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) その都度、状態に応じて考えられることを話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) いつもの状態を知り、いつもと違うなどの変化があれば速やかにバイタルを図り対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 認識している。薬の変更等があれば申し送りを行い、全員が把握出来るようにつとめている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 散歩やマッサージ、果物を毎日メニューに入れたり、牛乳やセンナ茶やプーアル茶など試している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後に声かけ、誘導している方もいる。できない方は、できない所を介助させてもらっている。必要な方はハブのマッサージもしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士はいないので、正確にできてはいないがバランスを考えながらメニュー表作りをしている。水分も特にご自分から訴えない方は職員が気にして声かけや、手渡し、介助をしている。 (外部評価) 軟らかいご飯や利用者が好きな魚料理・手作りのおやつなどバランスよく取り入れている。お茶は常に用意され自由に飲める。食事・水分摂取量はチェック表に記入され、個別に把握できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成して、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 夜間にコップや、調理用具のハイター消毒。できるだけ毎日買物へ行き新鮮な物を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前には季節の花を植えたり、木で作ったポストや表札など、親しみやすい雰囲気づくりをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や食卓には、お花を置いたり手作りの人形を置いたり、その月の季節物の置物を置くようにして、現在の季節を感じて頂ける工夫をしている。 (外部評価) 母の日には家族から花が届き、居室やリビングの雰囲気を明るく飾っていた。車いすの利用者に配慮し、安全に移動ができるよう家具の配置には心配りが感じられる。テレビのつけっ放しには気をつけている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用の場に、ソファなどで仕切りをつけて、居場所の工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇やタンス、人形等馴染みのものが置かれている。 (外部評価) 嫁入り道具の自慢の鏡台や使い慣れた筆筒が部屋に持ち込まれ、馴染みのものに囲まれて落ち着いて生活している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 起床前と日中一回、天窓やベランダの戸を開け換気している。温度計と湿度計をホールにつけてこまめに確認している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴室、廊下トイレなど、要所には手すりが設置している。一階と2階の外階段には昇降機も設置しており身体機能が低下しても生活を続けることができる工夫をしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には名前を書いた表札や個々ののれんを飾っている。トイレ、お風呂場は特に混乱なし。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチを置いてお話しをしたりできる工夫。ベランダや玄関には「お花を植え、育てたり楽しみのある活動の場」になっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	自分の思いを上手く言えない方は、今までの暮らしの情報を家族さんから聞き、現在の様子等、アセスメントして思っていることを考えているが本当の気持ちは分からないので。できるだけ、希望や
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	昼食後に一時間くらい、時間を作り利用者さんと会話をしたりゆっくり関われる時間をつくっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	朝以外は食事の時間になると自然にホールへ来られるので一緒に食べている。特に決まり事はないので、その他はその方のペースで過ごされていると思う。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	お手伝いして下さった時はお礼を言うことで、いい表情がみられている。毎日ご自分の役割がある方は、イキイキしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員の介助が必要な方や、〇〇へ行きたいと訴えが少ない方は、自立していて訴えが多い方にくらべると、まだまだ少ない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	健康面も安定している。往診に先生がくるのを楽しみにしている方もいる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員の入替わりがないので、その点は安心であると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	面会時、話すことも増えてきて、行事にも参加して下さったり徐々に信頼関係ができていくと思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	利用者さんの友人や近所に住んでいる子供達に来て下さっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている。 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方の知り合いということでお正月に獅子舞を呼んで下さったり、散歩中に休憩場がないので困っていることを伝えたら、散歩コースに椅子を置いてくださったり協力して下さっている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	人員不足で、勤務がハードな時もあり、利用者で過ごしているときは、笑顔で接しているがストレスを感じているスタッフもいた。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出したいと言われる時、その日の状況によっては行けない時があり不満となるときもある。スタッフの入れかわりないので、安心はされていると思うし混乱はほとんどない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	生活保護者の方であまり面会に来られない家族さんも居て、コミュニケーション等、図る方法が手紙くらいしかない。面会に来てくださる家族さんは、コミュニケーションも取れてきていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ボランティア活動をしている方々への協力をお願いし、利用者さんのお好きな歌や舞踊、大正琴その他、行事ごとが増えてきている。今後も積極的にとりいれていきたい。